

きぼうのいえ ニュースレター



2015年 冬号

特定非営利活動法人 きぼうのいえ

〒111-0022 東京都台東区清川2丁目29番12号

電話：03-3875-7523 Fax：03-3875-7525

E-Mail：kibounoie777@mbm.nifty.com

ホームページ：http://www.kibounoie.info

死生観の逆転こそ、少子高齢化社会での生き方の秘訣

施設長 山本 雅基



「終活」という言葉がもてはやされています。悠々自適な老後を送るには何千万円必要であるとか、そういう話題が週刊誌に取り上げられています。でも僕は、そんなチマチマした老後の送り方には興味が持てないでいます。老いというものは肉体的には衰弱傾向に向かいますが、人生の経験値では、どんどんと右肩上がりなのです。昔から老年の方々は「長老」と言われて、人生の達人として尊敬されていたではありませんか。

きぼうのいえでは、人間の『死生観』が逆転しているのです。「メントモリ」(汝死を覚えよ)という言葉の通り、自分の人生のフィールドの中に、具体的に死を意識することが大切だと思います。僕たちは、元ホームレスのホスピスという死に向かう飛行場の「航空管制官」だと思っています。次々と離陸して天界に旅立つ入居者の離陸誘導係なのです。入居者は離陸して去っていきますが、その先には目的地があって、かの地においては、また素晴らしい世界が待っていることを信じています。聖書に「私たちの国籍は天国にあり」という言葉もあり、また「エジプト死者の書」の中では、「眼が死によってこの世の目を閉じるとき、魂の眼は開かれて明るい光を見る」とあります。

僕は最近、第二次世界大戦当時の宰相であった東条英機の辞世の句を読みました。彼はA級戦犯として死刑の判決を受けました。彼はキリスト教ではなく、巣鴨刑務所の教誨師から説かれた仏教の阿弥陀弥勒菩薩信仰に目覚めたといえます。

死刑執行の日、13段の階段を上る前に、辞世の句を僧侶から求められたときこう詠んだそうです。

「さらばなり ういのおくやま今日超えて 弥勒のもとに行くぞ嬉しき」

彼のような戦争遂行論者でさえそのような心情になるとすれば、きぼうのいえの入居者の皆さんが、次々と悠然と『死』を受容し、去っていくことは当然のことであるとの感を持ちます。

『死』を閉塞への道ではなく、新天地への旅立ちの開の世界と見ることが何よりも大切な感性だと思います。

2016年のカレンダーができました!



きぼうのいえの卓上カレンダーができました。どこにでも置けるB6サイズ。きぼうのいえのスタッフ、敏子さんが制作した紙粘土人形の写真が、12か月それぞれのページを飾ります。(写真は2月の「笠地藏」です) 一部1,000円(送料込)。

ご希望の方は、電話、FAX、手紙、メールなどでご注文いただくか、「きぼうのいえ後援会」の郵便振替用紙に「カレンダー希望」とご記入いただき、ご送金下さい。



きぼうのいえの人々

他にも何人もの入居者さん、ボランティアさん、スタッフがいいます。



実りました!



夏には、壁面にゴーヤを植えて暑さ対策!



スタッフTさん作画の月に一度の紙芝居。玄関を飾る季節の紙粘土人形も彼女の作。



植えた

忙しく働いている時に限って、Kちゃんはこういいます。元気なころは、「どんな注文でも、もってこい!」の、ものすごい腕の大工さんでした。

サボってないでしょ? 木曜日のお茶会よ! Kちゃんもコーヒーどうぞ♥



またサボってるぅ~!



入居者さんのイラストを描いてくれたスタッフMちゃん。

(スタッフより?) 頼りになるボランティアのSさん。

きぼうのいえの女神さま? ボランティア・節子さん。

聖公会の司祭さまも、きぼうのいえではお茶会のマスター役。エフロン姿が決まっています!



喫茶店をやっていた、苦みのわかるいい男(!) Yさん。きぼうのいえではみんな、Yさんから本格的なコーヒーの煎れ方を習います。お湯は「初め千ヨロ千ヨロ」が肝心です。

H雄さんは、大の伝書鳩ファン。本や図鑑を見せてくれるので、スタッフも伝書鳩に詳しくなりました!



H雄さんは会う人には必ず、こう声をかけてくれます♥

は~い。H雄さん、ありがと~!

木曜日のお茶会で、みんながいつも楽しみにしてるH子さんの「有難や節」。



あ〜りかたやあ〜りかたや

元芸人のH子さんは、三味線の名手!

寒くなるぞお〜。どうだお〜。もってけえ〜。



Sさんお気に入りのモーニングセットの名前

バークレイね!

Sさんの一番の楽しみは、長年行きつけの喫茶店に、ボランティアさんとモーニングセットを食べに行くこと。お出かけの日、ニコニコ。



お重から、入居者さんが食べやすいように小皿に取り分ける食堂の真知子さん♥

お節のご寄付が届きました。見たこともないような豪華さに、みんなで「わあ〜!」。



おせんべい 持っていきたい

気前のいいYちゃんは、いつもおいしいものをくれます。ケーキ、焼き芋、お団子... なんでも「持っていきなさい」

ご寄付の衣類を路上の方々にも分けるS爺

徳し系爺 No.1 のSさん。そのキュートさに、女性スタッフたちは胸キュン♥



雨の時には、ヘルパーさんはカッパで装備。

Sさん指定席の玄関前の椅子。



お〜い! がぶらぶら...



きぼうのいえの前の路上風景。ヘルパーさんは雪の日も嵐の日も、移動は自転車。



洗濯物を屋上に干すイケメンボランティアYくん。



OK OK

K子さんは、飴玉も大好好き。K子さん用語では、「鉄砲玉」。

御年 98 歳のK子さんは、毎日マイカップを持って日本茶もらいにスタッフの元へ。階段の昇り降りも、なんのその! スタッフたちは脱帽です。

Yちゃんは若い頃、東京タワーを建てました! もっとも重要なパートをうけもった、おひとりです! 94歳!!



来室する人には、必ず腕相撲勝負を挑む「親分(オヤビン)」ことIさん。誰もかなわない(ようにしている?)ので、全戦全勝です!



ヘルパーKさんのオウチのちゅこちゃん。犬好きの入居者さんを訪問してくれる、やさしいセラピー犬です。

でも、ほんと強いんですっ、オヤビン!

明日はきぼうのいえに行く日だ。

シオチャン

老人保健施設で介護職のお仕事をされているシオチャンは、月に数度、ボランティアに来てくださいます。穏やかな笑顔で包容力に満ちたかわり方をしてくださる彼の来る日を、心待ちにしている入居者さんと、そしてスタッフたち一。

きぼうのいえに来るようになって2年が過ぎた。日々高齢者の介護施設であたふたと業務に追われ働いているのに、なぜ休日にまたここへ？一番大きな理由はここの空気にある。

ボランティア面接で初めて訪れたときから、「なんだか家に帰ってきたみたいだな」と思った。それはいつ来ても同じで、スタッフや入居者の入れ替わりとは関係なく、ここの空間を満たしているみたいだ。とりわけデジャヴューを強く感じるのは、屋上から見た風景である。立派なビルディングやマンションや福祉施設が立ち並ぶ狭間に、昭和30～40年代頃の匂いを宿した家並みがあって、狭い路地をゆっくり目的もないふうに歩く人の姿があり、ゆったりした時間が流れている。と、「時をかける少女(?)」のように子供時代に心が戻るのである。

先日、礼拝堂に飾られた遺影を数えたら、自分が来るようになってから亡くなられた方が20名を超えていた。関わりの度合いはさまざまであるが、とりわけ印象に残っているのは、寝たきりですでに会話ができなかったMさんである。部屋に入って挨拶すると、あとはベッドサイドに腰かけてMさんの呼吸とたまに発する「ホウー」という

声を聞きながら、黙ったまま数十分を過ごしていた。その時間がどういうわけか、日々の仕事のストレスや私生活上の悩みを吸収してくれて、部屋を出るときはいつも穏やかな心境になった。Mさんは昔お坊さんだったとあとで聞いたが、人徳ゆえだろうか。

ふだんの職場でも、入居者とのようにゆったりした時間を共有できたらいいのと思うが、ナースコールが絶え間なく鳴り響くフロアでは、一つところに10分と立ち止まってはられないのが実情である。目まぐるしい就寝介助の合間にふと我に返って、「そうだ。明日はきぼうに行く日だ」と自分を励ましている。



きぼうのいえの屋上から見渡すと、そこには昭和の風景が。

■きぼうのいえでは、私どもの活動にご賛同頂ける皆様方に、ご支援・ご寄付をお願いしています。

振り込み方法は、①郵便振替 ②銀行振込 ③インターネット募金 の3つがあります。

きぼうのいえの運営へのご協力を、どうぞよろしく願い申し上げます。

① 郵便振替の場合

郵便振替番号:

00190-6-388670

名義:きぼうのいえ後援会

② 銀行振込の場合 (※1)

みずほ銀行 三ノ輪支店 普通

口座番号:1284037

名義:特定非営利活動法人きぼうのいえ

③ インターネット募金

ホームページからアクセスして、カード決済することもできます。

<http://www.kibounoie.info/index.html>



● ※1: 銀行振込の方で領収書が必要な方はメール等で連絡先をお知らせ下さい。

● 正会員希望の方は、お手数ですが事務局までご一報下さい。

